

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 山梨市教育委員会
2. 研究主題 : 小規模校のメリットを最大化させる方策
3. 研究タイトル : タブレット端末の教育利用による統廃合課題の改善について
4. 研究課題 :
- ・コミュニティ・スクール導入に向けての研究・協議
 - ・統廃合に伴う学校施設の計画的な利用及び地域人材の積極的な活用
 - ・ICT機器の活用による会議資料等の精選及び効率化への対応
 - ・アクティブ・ラーニングによる地域のよさや伝統・文化等を実感できカリキュラムの開発
 - ・タブレット端末の活用による家庭学習の習慣化と効果的な学習方法へ

5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

各学校におけるこれまでの地域とのつながりや関わりを新たな学習理念や学習方法により、教育的財産として継承していくとともに、統廃合によって充実・充実となるICT機器を積極的に活用し、学校の事務負担の軽減を図り、教育効果の一層の向上を目指す。その具体的な対応として、以下の3つの展開によるアプローチを考えている。

- ①地域連携や学校支援の核となるコミュニティ・スクールの導入
- ②タブレット端末を活用による会議資料の精選及び会議時間の短縮
- ③地域を題材としたアクティブ・ラーニングの開発

(2) 調査研究の実施状況（平成28年度）

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校統合（笛川小学校開校）及び学校組織の構築 ・学校運営協議会の設置準備と組織についての検討
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回活力ある学校教育推進会議[事業の経過と本年度の研究予定] ・第1回学校運営協議会 [笛川小学校運営協議会要綱の検討・笛川小の28年度の学校経営について]
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの指定 ・タブレット端末の活用について学習（校内研，講師齊藤TC・八代教授） ・コミュニティ・スクールに関する学習会（校内研，講師日永教授） ・地域との連携[牧丘朗読の会][笛吹童太鼓の継承]
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携[葉ボタン栽培] ・茨城県古河市への視察
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した授業実践（5学年 国語）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用した授業実践に向けて（授業案の検討）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用した授業実践（4年 体育） ・活力ある学校教育[推進委員による授業参観I] ・タブレット端末を活用した授業実践に向けて（授業案検討） ・地域との連携「葉ボタンの配布」[三富地区総合運動会に参加]

11月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回学校運営協議会（兼コミュニティ・スクール推進委員会） [児童アンケート・学校評価について] ・タブレット端末を活用した授業提案（2年 生活科） ・[活力ある学校教育推進委員による授業参観Ⅱ] ・文部科学省コミュニティ・スクール推進大会参加（長野） ・地域との連携[笛川小こどもまつり][牧丘病院医師による講演会]
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクール推進フォーラムへの参加（文科省） ・タブレット端末の活用による会議資料の精選及び会議時間の短縮について
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した授業公開〔笛川ブロック公開授業〕 ・タブレット端末の活用による会議資料の精選及び会議時間の短縮についての実践
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省「活力ある学校教育推進事業」視察 ・年間の成果と課題の集約と次年度の活動計画作成 ・タブレット端末を活用した授業実践と次年度教育課程の検討 ・アクティブラーニング研修会[講師 上越教育大学 大場教授]
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回活力ある学校教育推進会議〔本年度の成果と課題、次年度について〕 ・第3回学校運営協議会（兼コミュニティ・スクール推進委員会） ・研究成果報告書の作成

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

学校運営協議会の中で、統合後のアンケート結果が示された。ほとんどの児童が、統合後の笛川小での生活に満足している状況にある。また、広報活動を通じて、地域に今回の統合が良い方向に向いていることも知らせることができた。4つの地域との結びつきもできつつある。（地域素材の学習）、（地域人材の活用）。

タブレット端末を活用した授業実践の蓄積。いずれの授業でも、児童の活発に学習課題に取り組む姿を見ることができた。2回の授業において、活力ある学校教育推進会議の委員による授業参観が行われた。委員は各地区の代表も含まれており、統合後の児童の様子、学校の様子、機器を気後れすることなく使用していく児童の様子などを見ていただき安心や喜び、驚きがあったようだ。統合の成果を感じたのではないかな。

本市のICT環境の見直し、整備事業とさらに、学校におけるICT機器活用の推進等が、重なってしまい、新規の機器や無線LAN環境を整えることができなくなってしまい、（会議の時間短縮と資料の精選）への取り組みは、遅れてしまった。1月からの実施で成果は上げることができた。

(2) 成果物等

笛川小での実践の様子・資料、コミュニティ・スクールからの成果物、アクティブラーニング研修会資料などをつとじ、『平成28年度「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」事業報告書』として作成する。（3月）

(3) 今後の取組予定

「少規模校のメリットを最大化させる方策」のまとめの1年となる。そのまとめは、これまで2年の成果をもとに、継続性・発展性のあるものとした。笛川小は、4つの地域が一つとなった統合校として、各地域の核となり、各種連携を進め、地域に対して情報発信等を行う等の責務があると考えている。広がった牧丘・三富地域の核としてスタートするための1年目の取組とも考えたい。以下を研究の柱とする。①学校統合後の児童・生徒の社会性を育む（保・小・中の連携など）②地域の良さや伝統文化を実感できる教育活動の実践（①②には、ICT機器の活用やアクティブ・ラーニング手法・学校運営協議会の協力などで実践を支える）③ICT機器を活用した実践及び情報発信